

「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1-6	うきみどう まんげつじ 浮御堂 (満月寺)	国重文 (彫刻) 国登録記念物 (名勝)	平安時代に源信が、比叡山から眺める毎夜光る琵琶湖を怪しみ、網ですくうそとそれは黄金の阿弥陀仏であったことから、その供養として 1000 体の仏像を彫り、琵琶湖の突き出た湖中に建立し納めた。湖上安全と人々の衆生救済にあたったという水に対する深い祈りの現れとして、今もその信仰が地域で守り伝えられている。	大津市
1-7	たけべたいしゃ 建部大社	国重文 (彫刻、工芸品) 未指定	近江一之宮として有名。祭神は日本武尊で、毎年行われる神輿の船渡御の船幸祭は、日本武尊が海路を渡った故事に基づくもので、瀬田川で琵琶湖と一体となった瀬田川の水の恵みに対する感謝の念が込められた水にまつわる祈りを現す祭。	大津市
5-3	永源寺と奥永源寺の山村景観	国重文(彫刻・絵画・書籍・工芸)、 国史跡、 県指定(書籍・建造物・有形民俗)、 市指定(彫刻・工芸・書籍・建造物)、 市指定名勝、 未選定(景観)	永源寺は愛知川の深い水で育てられた紅葉の名所として有名。僧は、溪谷から流れる清流の音を禅の修業にかしたといわれている。境内には、「洗耳水(せんじすい)」という水があり、人々は耳の俗界のアカを水で洗い清めてから寺に向かう。奥永源寺は鈴鹿山系を源に持つ琵琶湖の水源愛知川水系にある山村景観で、遠く深い谷底から引込こまれ共同水道を生活に利用。また、豊かな水源が育てた良質な樹木は木地生産を生み、全国に広めた。	東近江市
6-4	あさひほうねんたいこおどり 朝日豊年太鼓踊 いぶきさんろくたいこ よび伊吹山麓の太鼓 おどり ほうのうじんじゃ 踊と奉納神社	国選択無形 県選択無形 市指定	水を司り、幾本もの大河の水源である伊吹山に対し、周辺の村々では現在でも9カ所で雨乞い御礼の太鼓踊りが山に向かって奉納されている。水掛かりの悪い扇状地で暮らす人々の水利の源への祈りと感謝の姿が今も引き継がれている。	米原市

構成文化財の写真一覧

1. 大津市

1-6 浮御堂（満月寺）



1-7 建部大社



5. 東近江市

5-3 永源寺と奥永源寺の山村景観



6. 米原市

6-4 朝日豊年太鼓踊および伊吹山麓の太鼓踊と奉納神社

